

立命館守山中学校・高等学校 2025 年度学校目標シート (2025 年度学校づくり総括)

教育理念

1. 教育目的

- 「自由と清新」「平和と民主主義」を体現する知的的好奇心と創造性を有し、多様な価値観を持つ他者と協働しながら新たな価値・ルールを社会に提案・実装し、社会に希望を生み出す人(GameChanger)を育成する。

2. 教育目標

(1)4 つのマインド(4Rs)の涵養

- ① RespectforOneself(自分自身へのリスペクト)
 - 自分の頭で考え、自分の意見を持つよう努める。
 - 自分の価値観・感情を含めた自分らしさを大切にする。
 - 自分の身体を大切にし、健康管理、体力増進をはかる。
- ② RespectforOthers(他者へのリスペクト)
 - 自分と異なる価値観や感情をもつ他者の存在を尊重する。
 - 意見や感情の対立は、直接対話による解決に努める。
 - SNS 等を含め他者が苦痛を感じる言動は厳に慎む。
- ③ RespectforSociety(社会へのリスペクト)
 - 公共の場である学校・通学空間にふさわしい身なりや態度、言動を心がける。
 - 社会の中の一員であることを自覚し、見知らぬ人に対しても謙虚な姿勢を心がける。
 - 社会のルールである法令を遵守し、正義と倫理に基づく言動を心がける。
- ④ RespectforLearning(学びへのリスペクト)
 - 学びを通じた成長が生徒の本分であることを自覚し、主体的な学び、自己の研鑽に努める。
 - 授業を大切にするとともに、より良い授業にするため教員との対話を心がける。
 - 学びに関わる不正(試験時の不正行為、論文の剽窃、生成 AI の不適切利用等)は厳に慎む。

(2)4 つのスキル(4Cs)の習得

- ① CriticalThinking(批判的思考スキル)
 - 「常識」に囚われることなく、多角的な視点を持ち、論理的・主体的に思考・判断する力
- ② CreativeThinking(創造的思考スキル)
 - データやテクノロジーを活用し、新たなアイデア・解決策を発想・デザインする力
- ③ Communication(コミュニケーションスキル)
 - アイデアを様々な手法で発信・表現すると共に、議論・対話を通じて課題解決をはかる力
- ④ Collaboration(コラボレーションスキル)
 - 多様な価値観の違いを前提に、他者を尊重しながら、チームとして協同する力

中期目標(上位目標)

- I. 探究する学びと「学び続ける力」を育てる授業創造
- II. 生徒指導・支援、課外活動を通じた生徒の当事者意識醸成
- III. 保護者・卒業生・社会的ネットワークの充実・拡大
- IV. 教職員集団づくり・働き方改革を通じた Well-being 向上
- V. 教育環境整備、2030 後半期計画の具体化
- VI. 入試広報の充実と入学者確保

I. 探究する学びと「学び続ける力」を育てる授業創造

中位目標		達成目標(当年度目標)		評価
1	授業・行事・自主活動を通じた「学び続ける力」の育成	(1)	学力を「学び続ける力」として捉え、「教員が教え込む」から「生徒が自ら学ぶ」へ転換する授業を研究・実践する。	◎
		(2)	「知っている・できる」レベル(知識量)中心から、「わかる」「使える」レベルにシフトした学習評価のあり方を各教科で研究・実践する。	○
		(3)	中学では学年行事を通じて探究する学びを実践し、高校では共創探究において「学びのジブント化」の観点から、探究の基本スキル習得、社会実装する学びの質向上を図る。	◎
2	サイエンス・DX教育の充実	(1)	SSH 認定校指定校として、大学・院との連携による理系課題研究の充実、海外生との共同研究や各種フィールドワークへの生徒参加を促進する。	◎
		(2)	DX ハイスクール指定を活かし、ライフイズテックとの連携をすすめる、生徒のデジタルスキル習熟を追求する。また、生成 AI の中等教育における活用を積極的に検討する。	◎
		(3)	立命館大学理系学部との連携をすすめる、理系進学率 4 割をめざす。	○
3	グローバル・多文化環境の充実	(1)	中高海外研修の成果をふまえて、今後のあり方を検討する。また、短期長期のアウトバウンド(海外留学・派遣)プログラムの多様化を促進する。	◎
		(2)	海外教育連携校を中心にインバウンド(海外生受入)の増加をはかり、オンラインを含めた海外交流による多文化環境の創出をはかる。	◎
		(3)	海外大学指定校を拡大し、海外大学進学を促進をはかる。	○
4	キャリアを見据えた進路支援	(1)	一貫教育部との連携により中高大院接続の充実をはかるとともに、学内推薦における校内選考特別枠(ゲームチェンジャー枠)を活用した選考を行い、効果検証をはかる。	◎
		(2)	寺子屋(放課後自習教室)の効果的活用を促進する。	◎
		(3)	難関他大学への進学支援、進路保障を行う。	○

II. 生徒指導・支援、課外活動を通じた生徒の当事者意識醸成

中位目標		達成目標(当年度目標)		評価
1	学校運営への生徒の参画促進による当事者意識の醸成	(1)	教育理念のアップデート(「4つのリスペクト」の新設)をふまえ、生徒・保護者との対話を経て校則見直しを行う。同時に、中高制服のあり方の検討を開始する。	◎
		(2)	生徒会・PTA・学校執行部による三者協議会を設置し、定期協議を開始する。	◎
		(3)	学校行事を生徒自治意識・能力向上の機会と位置づけ、活性化をはかる。	◎
2	生徒指導・支援の実践	(1)	「4つのリスペクト」を合い言葉に、いじめ、ネットトラブル、性の問題等、「課題予防的生徒指導」を行い、生徒が問題をジブント化できるよう支援する。	◎
		(2)	生徒の主体性育成とともに受容的・共感的コミュニケーションを研究・実践し、生徒との対話を通じて信頼関係構築をすすめる。	○
		(3)	チーム担任制の運営について不断の見直しを行い、効果的なクラス集団づくりを実践する。	◎
3	学年団・保健室・生徒部の連携による教育支援	(1)	養護教諭、SC、SSW、チュードントサポーター、教育相談担当教員によるチーム運営を基礎に、生徒の安心安全をフォローする。	◎
		(2)	体系的な包括的性教育プログラムを通じて、生徒が人権の視点から性を理解できるよう支援する。	◎
		(3)	デジタル保健室の開発等、時代・情勢を見据えた教育相談・支援をすすめる。	◎
4	課外活動の活性化と組織づくり	(1)	課外活動において、高い目標の実現をめざすとともに効率的な練習を計画し、「クラブ活動運営方針」に基づく休養確保、練習時間の設定を行う。	○
		(2)	各クラブでは、生徒主体の対話的・民主的な運営によりミッションや目標の設定、活動方針の策定が行えるよう支援する。	△
		(3)	クラブ活動指導員の任用、外部委託化・外部連携をすすめる。また、指導員への研修、委託会社内での研修の充実をはかる。	○

III. 保護者・卒業生・社会的ネットワークの充実・拡大

中位目標		達成目標(当年度目標)		評価
1	保護者連携を通じた信頼関係構築	(1)	日常的に保護者との積極的なコミュニケーションをはかり、信頼関係の構築をはかる。	◎
		(2)	PTA 役員・各学年役員と学校執行部との懇談会を学年単位で実施する。	◎
		(3)	子育ての方法を保護者が学ぶ機会として親学講演会・講座を設定し、参加を奨励する。	◎

2	20周年行事を節目とした卒業生連携	(1)	次年度の20周年に向けて、関連イベント開催、20周年誌編集、卒業生聞き書き、特設サイト等の準備をすすめる。	◎
		(2)	前項の取り組みを通じて、早苗会(同窓会)の組織化をすすめる。	◎
		(3)	教育振興会役員の協力の下、卒業生保護者の組織化をすすめる。	△
3	守山市・地域・企業との社会的ネットワーク	(1)	起業家育成を軸とした守山市との連携をすすめ、関連イベントへの生徒参加を促進する。	◎
		(2)	商工会議所、守山ロータリークラブ、経済同友会等、地域の企業・団体との教育連携をすすめる。	◎
		(3)	全国の教育機関や関連企業との教育連携をすすめ、社会的ネットワークを拡大する。	◎

IV. 教職員集団づくり・働き方改革を通じた Well-being 向上

中位目標		達成目標(当年度目標)		評価
1	対話型を基本とする持続可能な研修の実施	(1)	いじめ・ハラスメント防止を含め、対話を基本とした月例教員研修、夏季校内研修に参加し、教育力量の向上をはかる。	○
		(2)	公開授業週間に加えて、秋に公開授業研究会を企画し、外部評価を受けることを通じて各教科の授業実践力量を高める支援を行う。	◎
		(3)	教育に関わる情勢、理論、実践、法規、諸規程を学びあい、社会人としての基本マナー(挨拶、ホスピタリティ、他者尊重)の研鑽に努め、教員自身の学び続ける力を伸ばす。	○
2	リスペクトに基づく対話と合意形成	(1)	相互リスペクトを意識した対話機会を大切にしつつ、教職員間で率直に指摘し合える関係づくりをめざす。	○
		(2)	各分掌での議論時間を確保するため、校務運営委員会の審議・議決スパンを長くとする。	◎
		(3)	校務運営委員会は、対話と合意形成を重視し、方針提起・審議・決定のプロセスを明確化する。	○
3	働き方改革の推進	(1)	教員以外のスタッフによるサポート業務の内容を普段に見直し、業務効率化をはかる。	◎
		(2)	押印文化の見直し、DX化・ペーパーレス化をはじめとした業務のスリム化のための努力・工夫を行う。	○
		(3)	2025年度が法人による働き方改革推進予算の最終年度であることをふまえ、時間外業務を極力削減する意識をもって業務に取り組む。	○

V. 教育環境整備、2030 後半期計画の具体化

中位目標		達成目標(当年度目標)		評価
1	2025年度以降の施設改善	(1)	今年度・次年度にかけて校内防犯システムの導入をすすめる。	△
		(2)	校内設備改善の優先度を判断し、必要な改善を行う。	◎
		(3)	施設整備の第2次アクションプランの策定をすすめる。	○
2	2030後半期計画と2027年度改革プランの策定	(1)	中学1年の4クラス化(2クラス3展開授業)を実践・検証する。	◎
		(2)	高校では、2027年度以降の学びのシステム(単位制・学期完結制)について検討をすすめ、年内に基本プランを策定する。	○
		(3)	上記をベースに据えた2030後半期計画を策定する。	◎

VI. 入試広報の充実と入学者確保

中位目標		達成目標(当年度目標)		評価
1	2026年度入試の成功	(1)	中学・高校ともに現行方式を踏襲し、志願者増と優秀層入学をめざす。	◎
		(2)	正確かつ厳正な入試執行・運営を行う。	◎
2	WEBと既存メディアを併用した学校の魅力発信	(1)	サイトの一部リニューアルと情報の刷新を行う。	◎
		(2)	WEB動画や既存メディアを併用し、本校教育の魅力を発信する。	◎

達成状況

- ① 従来型の知識伝達から脱却し、ペアワークやプレゼンテーション等のアウトプットを重視する授業実践が全校的に推進された。特に英語科における生成 AI の有効活用に関する研究・実践は、文部科学省の研究指定を受け、AI 活用事例ハンドブックを作成する等、顕著な成果を上げた。探究活動においては、中学での万博運営への参画や、高校の共創探究における探究アドバイス AI の活用により、商品開発や起業、地域事業者との協働といった社会実装の事例が着実に増加している。さらに、SSH 指定校として専門機関や大学と連携した実践的な校外研修（立山連峰、伊豆大島での調査等）を展開するとともに、DX ハイスクール指定を活かした「1DayIT キャンプ」やプログラミング教育など、理数教育とデジタルスキル習得の面でも大きな前進が見られた。国際交流面では海外派遣や留学生の受入を拡大し、多文化環境の創出に貢献した。
- ② 新たに策定された「4 つのリスpekt」の理念に基づき、高校では、生徒・保護者との対話を経た校則の見直しが実施され、生徒自身が考えて判断する当事者意識の醸成が促進された。中学では、20 周年記念のカジュアルウェア導入を生徒主体の検討を通じて決定、当事者意識の高まりが見られた。また、今年度から学校執行部、高校生徒会、PTA による三者協議会が設置され、文化祭運営や校則改定等の多岐にわたる課題について直接対話が行われたことで、相互理解が大きく深まった。特に文化祭では、生徒自らが業者交渉や計画立案を行うなど「自分たちの学校を作る」という主体性が発揮され、過去最高規模の約 13,000 人の来場者を記録した。
- ③ 生徒指導面では、いじめは疑いの段階から対応をはじめ、毎週開催のいじめ防止対策委員会以外にも臨時委員会を開催し、組織的に対応することを心がけた。さらに、専門家を招いたネットトラブルに関する講演会や、包括的教育を体系的に実施、SC、SSW 等の専門職を交えたチーム連携が強化され、デジタル保健室等の多様な相談環境が整備された。また、課外活動においては、インターハイ準優勝、上位入賞、初出場、国スポ優勝をはじめ、多くのクラブ・個人が高い目標を実現する輝かしい成果を挙げた。
- ④ 日常的な対話や多様な懇談会の実施により、保護者アンケートにおいて「入学させて良かった」との回答が約 90%に達するなど、相互信頼関係が築かれている。次年度に控える創立 20 周年事業に向けては、生徒主体の聞き書き活動や特設サイトの構築等が進展し、早苗会（同窓会）の総会には 190 名が参加するなど組織化へ向けた大きな弾みがついた。社会との連携においては、守山市と共催で初の共創フェスを開催し、高校生が運営に参画したほか、経済同友会の依頼を受けた「世界湖沼の日プラットフォーム 2025」では生徒が企画運営を主体的に担った。さらに、全国の先進的な企業や教育機関との交流を通じ、生徒の課題解決力を育む実践的な社会的ネットワークが拡大している。
- ⑤ 教員の教育力量向上を目指し、中高生徒部によるいじめ・ハラスメント研修や、現場教員の実践を中心とした対話型研修が継続的に実施された。コロナ禍以降久しぶりに学校全体での公開授業研究会を開催し、外部の教育関係者からの客観的な評価とフィードバックを受け、教員の授業改善の契機となった。働き方改革の面では、スクールサポートスタッフとの連携により、分掌業務や生徒の心理的ケアをサポートする体制を構築したことで、教員の負担軽減に貢献し、持続可能な学校運営に向けた確かな前進が見られた。
- ⑥ 教育環境の整備において、本年度はアイリスグラウンドのリニューアル工事が完了したほか、一号館のカーテン・ブラインドの新調、ラーニングコモンズの什器整備、各教室の IT 機器やプロジェクターの計画的な更新が行われ、学習環境の質的向上が図られた。さらに、次期カリキュラム変更を見据え、学びの社会実装化と DX 化を通じたソーシャル・アントレプレナーシップの育成をめざす「R2030 後半期計画」を策定し、立命館学園の一員としての方針を確立した。
- ⑦ 中学入試では志願者 697 名は昨年度よりも 43 名減少したが、実人数では 430 名と昨年度より 6 名増加した。高校入試では私学無償化政策の影響もあり、推薦・専願・併願のいずれにおいても志願者が増加、専願に関しては、ここ数年倍率は約 2 倍で推移してきたが、今年度は 3.94 倍となり大幅に難化した。また、広報活動においては、20 周年記念特設サイトの立ち上げや、卒業生の活躍を紹介する動画シリーズ「リツモリミライ」の配信に加え、全教職員の意識向上により SNS 等を含む多様なメディアでの露出が拡大しており、本校の魅力が社会へ向けて効果的に発信されている。

改善策

①	知識偏重から脱却し、定期考査のみでは測れない多様な学力や学習姿勢を適切に評価する新たな学習評価手法について各教科で検討されているものの、その具体的な運用には至っておらず、今後の早急な制度設計が課題である。また、進路指導の面では、理系進学者が卒業生全体の約 28%に留まり、目標である 4 割に届かなかった点や、海外大学への進学実績がゼロであった点を改善するため、低学年段階からのきめ細かな文理選択指導の充実や、連携プログラムのさらなる見直しに取り組む。さらに、放課後自習教室「寺子屋」は定期考査前の利用率は高いものの、平常時の参加率が低迷しており、生徒の関心を惹きつける継続的な企画や仕掛けを通じて、自学自習の習慣化を底上げする必要がある。
②	高校では、校則の改定により生徒の当事者意識が育まれる一方で、保護者からは改定に伴うマナーの低下を懸念する声が寄せられており、「規律ある自由」の意義について、生徒や保護者と丁寧に対話を重ねて定着させることが課題となっている。私服併用を含む制服のあり方についても、場面に応じた適切な服装に関する共通認識の再構築が急がれる。また、教員が生徒を支える「伴走型」の指導方針を掲げているものの、保護者アンケートにおいて「気軽に相談できている」とする回答率に改善が見られず、生徒・保護者とのコミュニケーションの強化が求められる。とはいえ、生徒の言い分を聞かなかったり威圧的・感情的に対応したりすることは「不適切な指導」に該当するため、そうではない「共感的受容的コミュニケーション」を心がける必要がある。さらに、課外活動においては高い目標を追求しつつも休養日の確保や民主的な運営の実現、クラブ毎のルールの明示化が課題である。
③	教員間の相互理解を深めるための対話型研修が実施されたものの、対話と合意形成のプロセスを実質化し、教職員が忌憚なく意見を交わせる風土作りをさらに推し進めることが重要である。校務運営委員会においても、審議期間を設ける等のプロセス明確化は図られたが、年間を通じて活発な議論が交わされる場面が少なく、次期カリキュラム変更を見据えた活発な議論の場の形成が課題である。働き方改革においては、大型連休や夏季休業中における超過勤務が依然として常態化しており、労基法の遵守が必要である。新校務支援システムに不慣れであることや設定エラー等による成績処理ミスが見られたが、個人情報の不適切な取り扱いや思い込みによるミスも含め、たとえミスが発生したとしても途中段階で防止できるよう組織的チェック体制を確立する。
④	安全な学習環境の確保に向けて、今年度から次年度にかけて導入を進める予定であった校内防犯システムについて、仕様の選定や複数業者からの提案検討に想定以上の時間を要しており、法人と緊密に連携しながらシステム導入を早期に実現する。また、次期カリキュラムに向けた 2027 年度以降の学びのシステムの構築に関して、次年度は、検討したコンセプトを実際の教育システムに落とし込む具体的施策の決定と、それに伴うカリキュラムの精緻化を確実に行う。さらに、これらの教育目標を実現するためのハード面の基盤についても、学びの形態の変化に対応できる施設整備計画として具体化を進める。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	学校関係者評価委員（学校評議員） ○大崎裕士（守山商工会議所会頭） ○亀田晃巖（唯明寺住職） ○渋谷成子（立命館守山中高・早苗会相談役） ○玉倉大次（株式会社ピエクレックス代表取締役社長） ○辻本長一（守山市教育委員会教育長） ○中島智宏（立命館守山中高 PTA 会長） ○眞下忠（神港精機株式会社取締役会長） ○松浦博（滋賀医科大学副学長）	学校執行部出席者 ○岩崎成寿（立命館守山中高・校長） ○箭内健（同・副校長） ○森園崇司（同・副校長） ○藤田直孝（同・事務長）
開催日程	2025 年 6 月 26 日（木）授業見学、学校目標について	
主な議題	2026 年 3 月 12 日（木）代表生徒による活動報告	
評価・ 改善事項	第 1 回で出された意見： ① PTA 活動では学校と協力し保護者が楽しめる持続可能な活動を心がけている。 ② 少子化対策は喫緊の課題だが、滋賀県では中学受験人口はいまだ 3%であり、開拓の余地がある。 ③ 理系の進学率向上に期待。技術者は不足しており、質・量ともに減少している。頭でっかちでない、マーケティングやブランド視点を持つ人材育成をお願いしたい。技術者目線を持つ優秀な経営人材にも期待。 ④ 気持ちいい挨拶が出来ていることを評価。生徒には「ハングリー精神」「大きな志」を持ってもらいたい。	

- ⑤ 教育目標の4マインドの涵養では、自分へのリスペクトが大切。自己肯定感が低い生徒が多く、まず自分を大切にすることが必要。4スキルの到達度は、生徒へのアンケートに加え教員の客観的評価を行い、各スキルと授業科目の関連付け、改善プロセスを廻すPDCAサイクルを構築してはどうか。
- ⑥ ルールメイキングに関して、保護者から不安が寄せられていたが、大きな問題は無いと認識しており、今後の取組に期待。自ら考える生徒の育成、当事者意識の醸成が重要。

第2回で出された意見

- ① 日本全国で人手不足が進んでおり、教職員の採用不足も叫ばれているが、時間外労働・過重労働の軽減は進んでいるか？教育職の方々の過重負担についてはどうなっているか？
- ② 守山市でも教員確保は難しい。2025、2026年度とも年度初めは定員を埋めることができている。働き方は中学校が厳しい。
- ③ 保護者アンケート結果でいうと、我が子は気軽に教職員に相談できているという項目が相対的には低い。教職員はカウンセリングマインドを活かしたコミュニケーションができないとダメ。教育はそこが一番の基盤。この先生なら相談できるという関わり方にならないといけない。この点が一番の課題。
- ④ 違法薬物の問題やネット犯罪対策についてはどのように取り組んでいるか？
- ⑤ 4月からの道路交通法改正に備えた教育も行なう必要がある。
- ⑥ 歴史特に時代のリーダーがそれぞれの時代にどのような策を採り、決断をしたのかが、会社経営にとって大変参考になる重要な点である。その意味で、歴史に興味を持たせる指導をしてほしい。
- ⑦ 立命館守山は開学以来相当なレベルまで到達していると言える。
- ⑧ 今後10年後のリアルな目標イメージをどう持つのが課題。方向性をしっかりと示すことで教員も一体感を持って、進むことができる。
- ⑨ Game Changer 枠をもっと増やすべき。そういう Game Changer を3年間でしっかり育てること、そのためのプログラムを示すことができると良い。
- ⑩ 滋賀県の中では相当なポジションを確保できているが、これを日本全体のレベル、あるいは世界のレベルで見たときに課題が出てくる。
- ⑪ 今年の入学者のレベルが上がっている。それに見合う教育が必要。
- ⑫ 道路交通法改正についてしっかりと教育して欲しい。
- ⑬ FT コースを置く意義はどんなところにあるのか？